

アメリカ移民の話 8

アメリカ移民のまとめとして「福岡県海外協会」についてふれておきたいと思います。設立の趣意は次のようなものです。

一、趣意

(略) 我国現時の農村問題、社会問題、或は労働問題、思想問題の如き、此が根本的解決は、人口問題に遡って其の拠って来る原因を究めなければなりません。我が国の人口は、毎年六七拾万の増殖率を示し毎日約式千人の増加をなして居りますが、此の偉大なる人口の増加を海外に於ける人口の希薄にして而かも資源に富む地域に移す事は、人類共存の大綱に一致する所以であると同時に国民生活の基調として起る幾多の問題は海外発展の一事に依って、容易に解決し得らるると思わ

るのであります。此の意味に於て移殖民に関する思想を喚起し、海外雄飛の気象を鼓舞して、其の志あるものに、適當なる保護奨励を与うるは緊急なる国策の一である事は云う迄もないことであります。そこで、近くは満蒙、西比利亜、南洋方面は勿論、遠くは南米、中米、北米等苟も国民的の経済的發展を許す地域に向つては遲疑逡巡する処なく、雄飛の新天地を開拓するの勇氣を以て、突進すべきであります。(略)

今となつては隔世の感があるというものですが、戦前の日本は人口増加の圧力に苦しんでいたのです。一日二〇〇〇人の人口増、一年七〇万の人口増は一〇年で七〇〇万、一四年でおよそ一〇〇〇万の人口増となります。為政者はこの人口増にどう対応

福岡県海外協会の組織は次の通りです。

▼位置

福岡県庁内

▼設立

大正十四年十一月二十五日

▼役員

会長 斎藤安閑

副会長 古川静夫 野見山平吉

参与 平田貫一 安井誠一郎

顧問 旧藩主其の他本県出身の名士五拾壹名

評議員 福岡県警察部長・各市長・其他参拾五名

監事 久世庸夫 小塩熊次郎

幹事 中里喜一 岩重隆治 橋本綱太郎

支部長 米國華州(ワシントン)支部 松藤久吾

米國華州タコマ支部 大塚秀五郎、米國中央支部

津田登、米國桑港(サンフランシスコ)支部 堀莊

次郎、米國ワイオミング支部 井本兼太郎、英領力

ナダ支部 塩見音吉、墨西哥(メキシコ)支部 馬

場藤吉、布哇(ハワイ)支部 西島栄次郎、マニラ

支部 森貞蔵、比律賓(フィリピン)ダバオ・バヤ

バス支部 吉田円造、支那上海支部 渡辺新五郎

(以上、『海外協会中央会・各府県海外協会 要覧』

昭和三年十月、海外協会中央会より引用)

昭和五年十月、福岡県海外協会設立五周年記念式典で幣原喜重郎外務大臣は次の祝辞を寄せています。(アジア歴史資料センター、外務省外交史料館所蔵)

「福岡県ハ我国第三位ノ出移民県ニシテ、昭和四

年度ニ於ケル同県ノ出移民数ハ約二千四百人ヲ算シ、同年度ニ於ケル我国総出移民数ノ約十分ノ一ニ當ツテ居ル。抑モ国運ノ隆昌ヲ期スルニハ、内、国内民力ノ充実ヲ図ルト共ニ、外、海外ニ發展伸張スルノ要アルハ勿論ノコトナルモ、不幸ニシテ近世期末一時ノ鎖国政策ノ為禍セラレ、為ニ移殖民事業歐洲諸国ニ比シ、大ニ立後レノ觀アリ。随テ種々不利困難ナル地位ニ在ルヲ免カレザル処、幸ヒ輓近我國朝野ノ有識者ガ、海外發展ノ重要性ニ注目セラルルニ至リタルハ、洵ニ欣ブベキ次第ナルモ、我國一ヶ年ノ出移民数ハ未ダ僅ニ二万五千人、海外在留同胞ノ数約七十五万人ニ過ギナイノハ遺憾トスル所デアル。(略) 一面海外在留者ト郷土トノ連絡ヲ図リ、万里ノ異境ニ奮闘シツアル同胞ヲシテ、祖国ノ状況ヲ知ラシメ、之ニ慰安ヲ与フルコトハ緊要缺クベカラザル所デアル。福岡県海外協会ハ此等ノ使命ヲ帯ビ、同県ニ於ケル此種ノ中枢機関トシテ、内外ヨリ多大ノ期待ヲ以テ生レ、茲ニ五周年ヲ迎ヘラレ、其ノ事業ハ年ト共ニ擴張發展シツアルコトハ、独り同県ノ為ノミナラズ、我国海外事業ノ為、洵ニ愉快トスル所デアル。聊カ所懐ノ一端ヲ述べテ祝辞ニ代フ。」

昭和の初めの時点で、福岡県は第三位の海外移民数、かつ国内年間総移民数の十分の一を占めていたと述べています。「出移民県」という言葉があったことがわかりますが、移民を送り出す県という意味です。

次に、粕屋町の移民の記念碑を『我が粕屋町の文化財』(一九八七)から紹介します。

渋田丈四郎翁の碑

大字長者原の岩崎神社前の線路横に、この碑は建つており、翁の功績と健康を祝した碑文である。渋田丈四郎氏は天保十四年(一八四三)に長者原に生まれた人で、福岡県においては、ハワイ渡航者の最初の人である。

明治十九年(一八八六)に神奈川県とハワイ移民局との間に、移民契約が締結されたことを知った渋田氏は、諸県人とともに率先して、ハワイに渡航された。そして抜群の成績を収めて、明治二十一年一旦帰国して近郡近村に米國渡航の有利なることを説き、少数の人と共に明治二十四年に再渡航された。その後同志の人が次第に集まり、粕屋郡は勿論近くの郡から三百余名の志願者が、明治二十六年、翁の後を追って渡航した。一時は在米者のうち、福岡県人は万余を数える迄になった。翁は在米二十五年、明治四十四年に帰国して静かに老後を送られたが、同志の人びとが翁の七十三才の健康を祝して、この碑を建てられたものである。

碑の高さ二〇六糎、中六〇糎の自然石による板碑の裏には、同航人船越亀吉氏外六五名の姓名が刻まれている。

するか、衣食住は、職業は、教育・交通・治安は、大きな不安を抱えていたことでしょう。

ちょうど今、それと逆の少子化が日本の未来に影響を落としています。二〇一〇年の日本の総人口は一億二八〇六万人、四八年には一億人を切り九九一三万人と予測されています。三八年間で二八九三万人の減少です。一年あたり七六万人の減、一日あたり二〇八六人ずつ人口が減っている計算です。日本は海外から移民を受け入れないと、社会のシステムを維持できないのではないかと、という議論もあります。

右の「趣意」で、人口増による「幾多の問題」が海外発展(移民)によって容易に解決できる(傍線部)とあるのは、まさしく今と逆方向の問題意識があったこととなります。